資料 2

第 5 期障がい福祉計画等策定に係るアンケート調査結果の概要報告

1　実施期間、配布・回収状況

市内に居住する精神障がい者保健福祉手帳所持者から、無作為に選んだ 2,335 人に配布（郵送）し、精神障がい者のニーズ把握のため、アンケートを実施。

【実施期間】　平成 29 年（2017 年）8 月 21 日　～　9 月 8 日

【配 布 数 】　2,335 件

※　平成 29 年 3 月 31 日現在の精神障がい者保健福祉手帳所持者数：2,552 人

【回 答 数 】　998 件

【回 収 率 】　42.7%

2　アンケート調査結果の概要

- 回答者のうち 80%が 18 歳から 64 歳の成人となっている。特に 40 歳から 59 歳の中高年層が全体の 5 割弱を占めている。
- 家族と一緒に住んでいる人が 6 割であり、親、配偶者と一緒というパターンが多い。
- 本人が生計中心者であるが 6 割近くであり、その収入源は、「会社などで働いた賃金」「家の商売や自分の事業で得た収入」で 4 割を占めている。
- 家計の状況では約 7 割の世帯が年収 300 万円未満となっている。
- 精神障がい者手帳の等級を見ると「2 級」が約 6 割、「3 級」が約 3 割となっており、最も重度である「1 級」は、1 割にも満たない。
- 通院状況を見てみると、「1 ヶ月に 1 回程度」が 5 割弱であり、「2 週間に 1 回程度」と合せると 7 割になる。
- 通院については、4 割の者が介助を受けているが、介助している者の 9 割が父、母や配偶者などの家族であり、ホームヘルパーの利用は 1 割である。
- 夜間や休日などに調子が悪くなったときはどうするかという問いに対しては、「我慢をする」「薬を飲む」が多く、次いで多いのが「家族に助けを求める」である。
- 通院の介助及び不調になった時の対応は家族への負担が大きい傾向が伺える。
- 夜間や休日などに調子が悪くなったときの支援策としては、「医療機関がいつでも開いている」ことを望む者が 5 割強で一番多い。
- 日々の暮らしでの困りごとでは、ｴ）規則正しく睡眠をとること　ｵ）初対面の人と話をすること　ｸ）友人と出かけたり、楽しくすごすこと　ｹ）お金を計画的に使うこと　ｺ）市役所などで手続きを 1 人ですること　ｾ）部屋の掃除をきちんとすること　ｿ）調理をすること の項目において、「困っている」「やや困っている」を合わせて、約 4 割を占め、高い割合を示している。
- 日中活動や、社会参加について、週に 1 回以上、定期的に通う所があると答えた者は全体の 5 割強である。

- 通う場所では、通う所があると答えた者の 3 割が「職場」であり最も多く、次いで「障がい福祉事業所」「病院のデイケア」となっている。
- そこへ通う理由としては、「生活リズムをつける」が 5 割弱で最も多く、次いで、「将来のため」「お金がほしい」となっている。その他で 3 割を超えている項目は「相談できる人がいる」「仲間がいる」となっている。
- 居場所や活動の場としては、「一人でいっても安心してくつろげる場」が最も求められている。
- 将来の暮らしに対しての不安については、「自分の健康や障がいのこと」「生活に必要なお金や収入のこと」が高い数値を示しているが、「不安なことはない」「考えたことはない」という項目を選んだ者はほとんどおらず、たくさんの者が、たくさんの不安を抱えていることが伺える。
- それに対し相談できるところを問うたところ、「普段かかっている病院」が最も多いが、次いでは、「相談できるところがない」となっており、「市役所の相談窓口、保健所等の公的な施設」より多い数値を示している。
- 「相談できるところがない」の理由で最も多かったのは、「相談できるところがどこにあるのか知らない」であった。
- 相談窓口に望むこととしては、「身近なところで相談できるところを増やしてほしい」であった。
- 必要と思う支援制度・サービスでは、「福祉制度やサービスを利用するための相談支援」「気軽に寄ることができ、あまり制約なく過ごせ、話を聴いてくれる場」を選ぶ者が多かった。